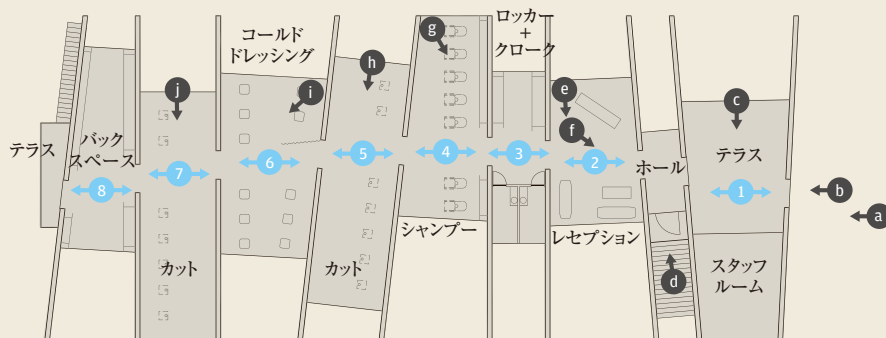


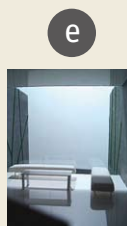
開口部の連続写真



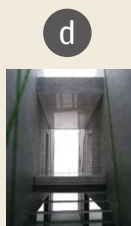
写真中／永山さんプランの模型。(写真＝藤塚光政) 写真上＋右図／ホールからレセプションへと入っていくと次々に現れる開口は微妙にずれ、一度に全体を見通すことはできない。見返しても入り口は見えない。迷路に迷い込んだような、距離感をなくしたような非日常空間へワープする仕掛けが用意されている。(写真上下提供＝永山祐子建築設計)



内観写真



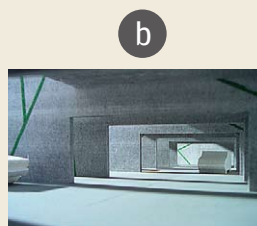
ツタの装飾を施された壁に縁取られた景色を望む。



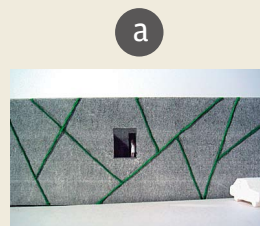
壁のあいだに挟まれた階段を登る。道路の喧噪から離れ、店内に入る。



テラスは開口を通して一番奥に見えてくる場所になる。



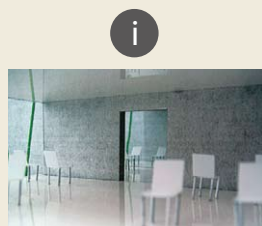
駐車場はまるで高架下のような空間。壁をすり抜け、壁のあいだの空間に車を駐車する。



コンクリートの無機質な壁面にツタの緑によって模様を描かれている。堅いコンクリートのイメージにやわらかさを与えている。



セット面の壁は一面鏡張りにする事で部屋の大きさに2倍の広がりをもたせる。



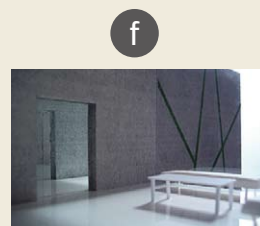
コールド空間は広めにとってあるので、今後カット席としても使用できる。



ワンルーム的造りの美容室に比べ、空間を分けることでプライバシーの高い造りとする。



シャンプーなどもほかの部屋から分けられることで親密性の高い空間になっている。



天井、床は白くツヤのある素材にすることで、部屋の中を明るく見せるとともに、上下に少し像が映り込むことで広がりのある空間を創り出している。